

平成30年度 第9回豊能町教育委員会会議（12月定例会）会議録

日 時： 平成30年12月28日（金） 午前9時30分開会

場 所： 豊能町役場2階 大会議室

出席者： 教育長 新谷 芳宏  
教育委員 宮崎 純光（教育長職務代理）  
教育委員 太田 佳子  
教育委員 川村 新  
教育委員 岸本 恵子  
教育委員 坂口 敏子  
事務局： 教育次長 南 正好  
教育総務課課長 入江 太志  
教育支援課課長 内野 慎也  
教育支援課主幹兼子ども支援室長 川西 弥生  
生涯学習課課長 中谷 匠  
教育総務課課長補佐 中谷 康彦

傍聴者： 18名

会議次第

○協議事項

保幼小中一貫教育の推進方針・学校等再配置計画について

○各課・室の報告

開会 午前9時30分

（議 長）

それでは定刻となりましたので、会議をはじめます。

本日は大変寒い中、お集まりいただき、ありがとうございます。

平成30年度第9回豊能町教育委員会会議（12月定例会）を開会いたします。

ただいまの出席委員は6名です。過半数に達していますので始めます。

会議録署名人を教育長職務代理の宮崎委員にお願いいたします。

本日の傍聴希望者ですが、本町教育委員会会議の傍聴の定員は10名とさせていただいておりますが、現在17名の方が来られております。10名を超えた方も、できましたら傍聴していただいたら良いかと思いますが、皆さん、いかがでしょうか。

=全委員承諾=

＝ 10名を超えた傍聴者の入場＝

(議 長)

本日は、協議事項1件を議題とさせていただきます。

協議事項につきましては、お手元の会議次第に書いております「保幼小中一貫教育の推進方針・学校等再配置計画について」でございます。よろしくお願いいたします。

前回、住民説明会についての報告をさせていただきましたが、その時はまだ質疑応答要旨がまとまっておりませんでした。その後、まとめまして、事前に委員の皆様には送付させていただきました。

今日は、住民説明会、保護者説明会での質疑・意見等を、皆様方と議論を深めていきたいと思っております。

その前に11月の教育委員会会議以降の動きについて、事務局の方からご報告いただきたいと思っております。

(事務局)

11月の教育委員会会議の後ですが、12月4日に木代自治会より要望書が出てきております。「豊能町東地区の学校存続に関する要望書」ということで、「東地区の学校存続について東地区住民との協議が必要にもかかわらず、小中学校の再配置を進めることは木代自治会としては納得できません。よって木代自治会として嘆願書を添付し下記事項を強く要望します」。

1として、「東地区小中学校の在り方について東地区住民との協議の場をもち、住民の意見を反映させた案に改正して下さい」。2として、「東地区に学校を存続させて下さい」ということでございます。それ以外のものにつきまして、電話等の問い合わせがありますが、目立ったものはありません。

(議 長)

この件、よろしいでしょうか。

では、住民説明会・保護者説明会を踏まえて、教育大綱についての教育委員会としての考え方、各教育委員様のご意見を承りたいと思っております。

最初に、逐次委員会会議で報告しておりましたが、改めて説明会の参加者数等や意見の概要について、私からご説明させていただきたいと思っております。

まず保護者説明会では、5月中旬から始めまして各校園2回ずつ、合同で西地区では1回、東地区では7回行い、未就園児対象2回、合計26回開催しました。西地区では参加者は延べ170名弱、東地区も同様におよそ170名弱の参加者でした。

その意見を私なりに集約させていただくと、本町で小中一貫教育を進めることについては、東西地区どちらの保護者もおおむね理解をいただいていると感じました。ただ、再配置については、東地区では1小1中、2小2中、2小1中の意見があり、特に学校存続をという意見が、嘆願書も含めてありました。西地区では今回示した教育大綱の再配置については、ほとんどの方が理解していただいたと認識しております。

また、住民説明会では、計4回、11月に開催しました。各回とも100名前後の参加者がありました。保護者の方もおられました。年齢を召された方も多かったと感じておりま

す。住民説明会等で出た意見は、教育内容や再配置の進め方の意見もありましたが、まちづくり、あるいは人口増加策、財政問題、既存施設の在り方などの方が多く出されたと感じております。そして、意見を述べられた方では、西地区では、賛成の方もおられましたが、反対の方が多かったように感じております。東地区では、存続をすべきとの意見、あるいは大綱には反対の方がほとんどでした。

住民説明会等で出た「まちづくり・人口増加策・財政問題・既存施設のあり方など」については、教育委員会としては、本日この場で議論するのは難しいと思っておりますので、住民説明会で町長部局が説明したとおりと理解させていただきたいと思っております。なお、住民説明会の質疑応答要旨は遅くなりましたが、昨日町のホームページにアップさせていただいております。ということで、私の方から概略を説明させていただきました。

それでは改めて、保護者説明会・住民説明会の質疑応答の要旨を踏まえて、教育大綱についての考え方を中心に各委員のご意見を承りたいと思っております。何点かに絞り意見をいただきたいと思っております。

本町で小中一貫教育を推進していきたいとなった経緯について、これまで教育委員を続けておられる方もいますので、その辺りのご意見も伺ってみたいと思っております。それから教育大綱にある一体型小中一貫校について、果たしてどうなのかというご意見。特に東地区の学校存続の意見・要望がございました。その件についてもご意見を賜りたいと思います。それから全体を通しての各委員のご意見をいただきたいなど。そして5年先、10年先を見据えて本町の教育の質の確保についてどう考えておられるか、ご意見を賜れば大変ありがたいと思っております。その他、各自ご意見があれば、いただけたらと思っております。

今回教育委員会として教育大綱の案を町長へ示しましたが、「本町で小中一貫教育を様々な課題を踏まえて進めて行こう」という経緯になったことについて、ここで改めて再確認をさせていただければありがたいと思います。

#### (委 員)

平成22年の西地区で小学校再配置の話がでたときに、吉川小学校の校長をしておりました。その後、退職してから教育委員をさせていただいておりますので、この間の経緯、自分なりに考えてきたこととお話しさせていただきたいと思っております。

最初、西地区の3小学校の再配置ということで、西地区の各自治会の会長、大学の先生、各校の校長、各園所校のPTAの会長が集まって話し合いがありました。その時には、すぐに「再配置をしましょう」ということにはなりませんでした。それは、まだ小規模校といえども吉川小学校でも100人前後の子どもがおりまして、それなりに努力をしておりました。

あまり小規模になると社会性が育ちにくいということがあったりだとか、子ども自身の中で切磋琢磨する機会が少なくなったりというようなことは元々危惧しておりましたので、日常的に合同学年で過ごす機会を増やしたりとか、異年齢で行事をやったりだとか、色んな子どもたちが触れ合う努力をしながら先生方の努力もあって教育成果が上がっているときでした。その時の委員も各校を見て回っていただいております。既に町内には大規模校はなく、光風台小学校が一番大きかったのですが中規模あるいは正規模の学校と、小規模といわれる学校が、どうなのかという話をしたのを覚えています。

その時も小中連携、小中一貫についてはすごく大事ではないかという話が出ていまして、3小学校のそれぞれの良さをもっと交流させる小々連携をしたりとか、その後、吉川中学校に3小学

校の児童とも行きますので、中1ギャップが出ないように事前に交流したりとか、色んな交流を深めましょうというところは異議がなく、将来的には単なる連携だけではなく、教科のカリキュラムを含めて一定のカリキュラム連携ができる小中一貫みたいなところをやっていくことが大事という共通理解はできたように思っています。

ただ、その時に最初に申しましたように「3小学校一度に一緒にしましょう」というところまでの統一的な意見は出ませんでした。ただ将来的にこの話し合いは続けていく必要があるのではないかとということで結んだように思っています。

その後、教育委員になったときに、平成25年の頃だったと思いますが、東地区も含めて小中一貫、西地区の子どもの数もどんどん減ってきていましたので、再配置についてどうあるべきかという話し合いをしました。その時は、「豊能町の子どもたちの教育の質をどう維持していくか」というところが話の中心になっていたかと思います。「単に人数が減ったから合併しましょう」という話し合いでは決してなくて、「より良い教育を豊能町で作り上げていくためには、どういう学校にしていくことが望ましいか」という話し合いだったと思っています。それはいままでもずっと一貫して、子どもたちにとって何がベストなのか、ベストまでは行かなくてもどれがベターなのかという話し合いをしてきたことは、いまも続けていると思っています。その時ずっと出ていたのは、東地区では既に東能勢小学校から東能勢中学校にみんな上がるということもあり、小中一貫教育というか、連携教育をととても進めておられる経緯もありました。府のモデル事業を受けているということもあって、中学校の先生が教科によっては小学校の高学年を見てくださったりだとか、色んな意味でとても先進的な取り組みをされていました。授業のことだけではなく、家庭学習のあり方だとか、日々のノートの取り方、授業の態度、学校内でのルールも東能勢のスタンダードとして、小中で話し合いをしながら、小学校でやっているきめ細かい取り組みを中学校でも取り入れようということで、子どもたちにとっては大切な取り組みを先進的にされていたということもありました。

小中一貫を考えるとときには、西地区も東地区でやっている取り組みをモデルにしながら取り組んでいこうということで、「一足飛びに3小学校が一緒にならないまでも、西地区は西地区で出来ることを東地区に学びながらやろう」ということで、教育委員会でも校長会を通じながら話し合いをしていただいて、教育のあり方を進めてきたと思います。その中で小中一貫のあり方みたいなところを話しあった時に、その時点で私たちの結論として出したのは、東地区で1小1中、西地区で1小1中という形の、町としては2小2中がいまのところ良いのではないかと。将来的に人数が減ってきたときに、やはり1小1中にせざるを得ない時も来るだろうというように考えておりました。

この後、町長も代られて、新谷教育長になられたときに改めていまの話し合いがスタート、継続した話なのですが、東地区の子どもたちの人数の減り方が、私たちが予測していた以上に進んでいるということにととても衝撃を受けました。それは西地区においても同様です。吉川小学校が、横ばいにはなっているのですが、東ときわ台小学校が急激に減ったり、光風台小学校がほとんどの学年で単学級になっている、このような急激な子どもの減り方があった中で5年後、10年後を見据えて、どうしたら良いかという話し合いをしたときに、これはもう段階を踏んで2小2中、その後に1小1中にするというような状況ではないなという話し合いになってきたように思っています。

私たちは東地区から学校がなくなることを決して望んでいるわけではなくて、ただ子どもたちにとって良い教育を進めるためにどうしたら良いかという時に、いまの結論に達したと思っています。

ます。「何故、このようにになったか」ということは後ほど言いたいと思っております。こういう経緯を踏まえながら、いまの結論に至ったのかなと思っております。

(議長)

ありがとうございました。

小中一貫教育ということで、その点に焦点を絞りながら、もう少しご意見をいただけたらありがたいと思います。

(委員)

小中一貫、小学校6年間と中学校3年間、6－3制に分けるのは、この時代には少し無理があるのではないかという話も教育委員会の中で出てきました。

子どもたちの成長発達段階も以前と比べると違っているし、小学校の高学年になれば教科担任制にしていった方が子どもたちにとっては良いのではないか、それから小学校の先生も中学校の先生も1つの教室で話せるような環境の方が子どもたちにとって、質の高い教育ができるのではないか、そういう話し合いもしました。それで小中一貫。小1プロブレムと言って、小学校1年生に上がる時の問題もありますし、こども園・幼稚園でやってきたことを小学校につなげるためにも保幼小中一貫、豊能町では0歳から15歳まで教育の面倒を見る、そういった形が良いのではないかというような話し合いになってきました。

(委員)

私は過去に中学校の教員の経験があり、小学校にも講師で、TT(ティーツー)と言って授業をされる先生以外に入り込みという形での経験があるのですが、現在の小学校の状況、いろんな問題、子どもの様子が変わってきていて早熟になっているということを感じています。そのような中、先生の業務も増えていて、手一杯になっている状況の中で入り込みをさせていただいて授業を見ていますと、「もう少しこうしたら良いのではないか」と思うところを感じたりしています。小学校から中学校へパシッと分かれるのではなくて、流れて行くような学校が、子どもたちには良いのではないかというイメージを持っているところに小中一貫のお話をよく聞くようになって、自分の経験からそれはとても良いなと思っておりました。豊能町でそれを目指すということは良いことだと思っておりました。小中一貫が良いという意見です。

(委員)

平成27年度から教育委員をさせていただいておりますが、前教育長の方がおっしゃっておられましたが、やはり中1ギャップというのがあって、スムーズにずっと9年間続いていく教育が大切であると。今後、豊能町でこれを進めさせていただくということをおっしゃっておられました。

私自身も、いろんなことを考えられて、そういう方向で進んでこられたなと感じております。私は賛成と思っております。

(委員)

先ほど中1ギャップの話がありましたけれども、研修会でお話を聞かせていただくと「中1リセットだ」という話があって、「小学校でどのように学んできたか分からないが、ここからは中学

生の勉強をします」と、リセットされる形の話の小中一貫教育に深く携わっている先生から聞きました。子どもの成長も変わってきてますし、6-3制が今の時代に合っているのかとの話もあり、やはり9年間を見据えての教育というものが大事だということをおっしゃっていました。私もそうだと思います。そのとき大事なのは、「9年間でどういう子どもを育てて行くのか」を共通したビジョンを持っていた方が良いということで、「豊能町が目指す子ども像」、これを皆さんで早急につくる必要があるという意味確認があったと思っています。これこそ皆さんと東西関係なく、「豊能町の子どもはこういうことができるんだ、こういう風になって行くのだ」ということを目指して、9年間を見据えた指導を、教育をしていきたいなという思いがあります。また生活指導上の課題、小学校の生活指導と中学校の生活指導は違う感じがします。やはり9年間を見通して生活指導、担任の先生が一人で抱え込んでしまうということが小学校でありがちなのですが、やはりそうなる教育のプロではありますが、先生はかなり疲弊します。部活も大事ですが、先生は部活動のプロではありませんし、クレーム処理対応のプロでもないと思います。先生方が子育て、子どもの教育という面では協力してやっていく体制が必要だなと思います。その辺りは、中学校は結構できていると思うのですが、小学校は担任がいるので、家族のように付き合いができて、すごく良い面もありますが、その良い面を残しつつ両方の良いところ取りができれば良いなと。それが小中一貫教育だと思っています。小学校の先生と中学校の先生との交流というのがあまりないような感じがしており、教育の指導力向上、子どもたちの見守り方とか共通の意識で育てていく意味で、小中一貫が大事だと。保幼も含め、保幼小中でやって欲しいなと私は思っています。

#### (委員)

小中一貫の中で、私はやはりカリキュラム一貫というところがすごく大事だと個人的には思っています。例えば小学校で算数をするときも、中3の時にはどんな力をつけなければならないところを、単元ごとの目標を学校として見据えられていたら子どもたちに効率良く、しっかり付けなければならない力を付けていく。その中で先を見据えたときに、いま小1でやっているこの算数と、小3でやってるこの算数は、中3のこれに結びついているということが、学校の中で共通理解ができていたり、国語のいまやっているこの読み取りは、中学校卒業するときまでにこれだけの力を付けてやって卒業させてやりたいということが認識できていれば、すごく子どもたちにとってわかりやすい授業がしていけるのではないかと考えています。いまも先生方は研究会でそういうことをやってくださっていますが、やはり日常的に小学校と中学校の先生が目の前に子どもがいる中で、話し合いをしながらカリキュラムを積み上げていくことの大切さをすごく感じていて、一緒の場所に先生たちがいることはすごく大事なことだと思っています。なので、一体型とも結びついてきますが、やはり隣接で隣り合わせであっても違うところにいるよりも、同じ場所で、同じ子どもの話をして欲しいと思っています。

#### (議長)

私も東能勢中学校にいた時に、当時、東能勢中学校と小学校が連携をして、府の加配をいただき、「いきいき」という取り組みがありました。例えば、英語の先生が小学校へ行って教える、あるいは社会の先生が、理科の先生が小学校へ行って授業をやるということで連携をしていました。いま、現実ではできていないです。去年、東能勢小中学校の校長お二人に来ていただいて、小中一貫を少しでもいまの体制の中で如何に進められるかを協議させて頂きました。現実的にでき

たのは、小学校6年生の子どもたちを月一回、中学校で5～6時間目を使って行ったのが精一杯でした。現実問題として、先生の配置もギリギリ一杯でやっていますので、プラス  $\alpha$  のことをするのは非常に厳しくなっています。保護者説明会でも説明しましたが、子どもたちの減少が進むと先生方の減少も並行して起こり得る可能性が大である。そうなってくると、いまやってきたことが数年後にはできなくなるということがあり、小中一貫教育といえども、なかなか実をあげる小中一貫教育にはならないのではないかと思います。そういう意味では、先ほどありました一体型は、同じ職員室の中で先生方が協力して、子どもたちを直に見ながらやっていけます。

もう一つは小学校4～6年生の子どもたちと、中学1年生、ちょうど中間の世代の子どもたちの教育、これはやはり中学校の先生の協力と小学校の先生の協力することで相当良い影響が出るのではないかと。これは先進地を見ても、そういうことをおっしゃられていたところも結構ございました。いま児童生徒の発達の早期化と言われている部分があって、むかし中学校で起こっていたことが、いま小学校5年生、6年生で、あるいは4年生くらいで既に起こっている。我々が勤務していた頃は、中学校は結構荒れていました。中学校の先生はある程度それを克服しながらやってこられました。しかし、小学校はうまく対処することがノウハウとして、まだ蓄積されていないところがあり、非常に人数も少ない中で厳しいというところがあります。

(委員)

質問させていただいていいですか。

小中一貫のことについて、住民説明会で事務局の方で答えられているので、その辺を読んでいて、なかなか自分では上手く言えないことをまとめていただいているなど思っていたのですが、11月24日の住民説明会のD-9のところですか。長い時間をかけて私たちは話し合ってきたことだと思うのですが、事務局が言われていたことをもう少し具体的に小中一貫のところを話してもらえたらありがたいです。

(事務局)

ご質問としては、「1小1中が良いのか、一貫教育が良いのか分かりませんが、若い方々の意見を聞きながらやっていただければと思います」というようなご質問に対しての回答をさせていただきました。先ほどから委員様がお話しいただいていることを、まとめたような形でお話をさせていただいたと記憶しております。

現在の学校の現状ですが、危機感を持って、これからの将来の子どもたちがより教育の質を向上させた中での学校づくりをしていかなければならないと強く思っているということで、学校の現状を少しお話しさせていただきました。ここに書かせていただいているのですが、なかなか気持ちのコントロールだけでなく、発達的な課題をお持ちのお子さん方も増加してきているというような実感もございます。先ほど小学校から中学校に上がる場合の中1ギャップであるとか、保育所・幼稚園から小学校に上がる時の小1ギャップというのが一般的に言われているのですが、それはよく大学の先生方が電車で例えられます。保育所・幼稚園の電車に乗っている、それを一旦乗り換えて新しい小学校の電車に乗るんだと。またそれを6年間過ごした後、また新しい中学校という電車に乗るんだと。そこの乗り換えの時になかなか乗り換えが難しい、そこで乗り換えられない、乗り換えても乗り換えた電車に対応し難いというようなお子さんが随分と増えてきているというお話を聞かせていただいたこともあります。そういうお子さんに対しても保育所・幼稚園から同じ電車に乗っているんですけども、行き先が実はスムーズに中学校へ導いているの

だと、そういった教育ができないかという発想が、私は保幼小中一貫教育の中にあるのではないかなと思っております。その中で同じ電車なのですが、子どもたちの教育の質の向上をそこで保育所・幼稚園・小学校・中学校の先生方が協力してやっていく、そこに大きな意味があるのではないかなと思っています。そうすることで、いま課題に出ている小学校の暴力行為の増加であるとか、不登校への対応であるとか、保護者の皆さんの学校への理解を更に深めるということが、いま以上に先生方が対応しやすく、またきめ細やかな対応がスムーズにできる。それは保護者の方にとっても、子どもたちにとっても有益であると考えております。

中段あたりに書かせていただいておりますが、いまの6-3制のメリットももちろんあるかと思いますが、いまの豊能町の子どもたちを見たときに、やはりこのままの体制ではなく、よりスムーズに今後出てくる英語教育であるとか、プログラミング教育への対応、また各教科の内容が、質・量ともに随分と増加しております。その対応を保育所・幼稚園の先生がそこだけで完結する、小学校の先生がそこだけで完結する、中学校の先生がそこだけで完結するというのは大変難しい状況で、そこでも協力をしながら進めていくことが、教育の質を高めていくことにつながっていくと思っております。

もう一つ付け加えますと、委員の方からもありましたが、東地区の子どもたちにとってだけでなく、西地区の子どもたちにとっても、5年後、10年後を考えたときに、少しでも持続的に保幼小中一貫教育を進めていく、10年後、20年後、さらには30年後にも保幼小中一貫教育を進めていけるような状態を作っていくためには、いま1小1中という案が出てきていますが、その形がよりベターではないかなと考えています。

#### (議 長)

小中一貫教育について、なぜこういった形で進めていきたいとなったのか、以前から議会でも説明させてきていただいたことですが、平成17年頃から国の方でも小学校教育・中学校教育ということではなくて、義務教育という観点で、9年間で教育をしていってはどうかということ審議会等で議論なされて、全国で少しずつその考え方が広まってきており、1つの形態として小中一貫校とか連携型の小中一貫校、あるいは平成28年4月から義務教育学校というような制度化された形ということで、近隣の池田市、義務教育学校では無いですが箕面市では小中一貫、能勢町でも小中一貫。豊中市でもそういう試みを順次されているということで理解をしております。

私たちが現場におりまして小学校・中学校を経験してきましたが、小学校の先生は「なぜ小学校でできていたことが中学校でできないのであろう」とか、逆に中学校の先生は「なぜ小学校の間にそれをしてくれなかつたのだろうか」とか、そういう校種の壁というのは非常に感じられました。両方やってみますと、どちらにも良いところがあるし、どちらにも課題があると。それが両方の校種が交わることで、当初は大変でしょうが、それぞれ良いところを学び合える、理解し合える。それが最終的には子どもたちの教育の質を高めていくということになるのではないかなと思います。そういう考え方が全国的に広がっていくというのが、ひとつの流れかなと。諸外国を見ても小学校・中学校という日本のスタイルをとっているところもありますが、多くは9年生というような形で義務教育をとられていることで、やはり義務教育という大きな観点の中で、これから考えていかなければならないのではないかなと思います。それが現実の問題としても、その課題に対応するためには必要ではないかというように私も理解をしております。

これについては保護者説明会でも保護者の方が小中一貫の考え方について、ほとんど反対の意見はなかったかと思っております。

いま教育大綱にある小中一貫教育の一体型ということで、場所は西地区となっております。一体型の小中一貫教育、それは先ほど出た内容と非常に被ってくる訳ですが、あとに出てくる「東地区に学校を」ということであれば2小2中という考え方、あるいは2小1中という考え方ということになってくるとは思いますが、一体型小中一貫校を目指すという教育委員会の当初の考え方について、改めて皆さんからご意見を承りたいと思います。

#### (委員)

まず一体型ということですが、一貫教育を何故するのかですが、3つあると思います。ひとつは、先ほど言われました「何故、小学校でこれができていないのか」という話がありましたが、逆もあると思います。すごく出来ている子(成績の良い子)もいて、その子にとっては授業が物足りない。学年進行に伴って能力格差が拡大して行っているんですね。これに対応するために、教師の教育力を上げていかなければならない、指導力を向上していかなければならない。一貫教育を長く見据えて、教師が授業を観察したり参観したりして、教師の教育力を上げていかなければならないというのがひとつです。ふたつ目は、生徒指導上での課題への対応です。これも全体として取り組まなければならない問題です。三つ目が、一体型と関係するのですが、学校のダウンサイジングへの対応＝小規模化です。日本全国で起こっており、日本の学校はこれまで経験したことのない環境が来ております。これに対応するため、新しい学校システムを作る必要があり、一貫教育の理由としてもあがっていると思います。

平成22年の報告に出た意見を読ませていただきます。

小規模校の特色として、入学からほぼ同一集団であり、上級生下級生も互いに相互理解が深まり、コミュニケーションが容易になり、暖かい関係が生まれる。児童会活動や学校行事等で全校児童生徒の一体感が生まれるとともに、一人ひとりの活動の場が増え分担が明確になり責任感が育つ。小回りが効くので、行事の変更や学校外活動等、軌道性に富んだ教育活動ができる。全教職員が全校児童の名前を覚えやすいため、きめ細やかな支援・指導ができる。学校の活動をダイナミックにするために、地域や保護者の支援を頼む場面が増え、地域ぐるみの教育活動を展開できる。異年齢間の教育活動が豊富である。以上良い点として挙げられています。

次に標準校の特色というのがあります。クラス替えがあって進級するごとに新しい出会いがある。児童間の切磋琢磨・競い合いが生まれて、多様な見方・考え方の交流やふれあいが盛んになり、覇気・たくましさが育つ。人間関係・交友関係が固定化されず、学年毎に気分転換を図る機会があり、気まづくなった人間関係を修復できる。学校行事の種目やクラブ活動の種類が多く設定でき、盛り上がる。クラブ活動は以前からも問題になっています。どんどん減ってきております。各学年が複数学級で構成されることにより、担任間の教材研究や指導方法等の研究ができ、授業づくりが豊かになる。これがすごく大事な点だと思います。平成22年から指摘されています。教職員が多く、複数の教員で校務分掌を担当することができ、豊かな教育実践が生まれる。理科、音楽等専門教科において、教科担任に指導してもらう機会に恵まれている。ということが書かれています。小規模校といっても1クラス30人、40人の小規模校と、1クラス5～6人の小規模校とは1クラスといえども違うと思います。そうなると小中一貫教育、9年間で見ていこうという中でも弊害が生まれて、習熟度別クラス＝これはすごく効果的ですが、1クラス5～6人しかいないところで習熟度別指導はできないです。しかも40人ぐらいいれば、例えば友達5～6人で集まる集団が作れると思います。合わなければ他の集団・グループに交わることができますが、これが各学年5～6人だと、すごく楽しいか、すごく面白くないかということ

が起り得ると思います。教育面にだいぶ支障がでます。教員の力量もおそらく育ちません。その子たちに合わせた教育は出来るかもしれませんが、それを毎年毎年違うタイプの子たちに合わせていくのは、たぶん教師がもたないと思いますし、一貫教育を進める上で弊害だと思います。1人の先生でしか対応ができないということが出てきますので、一定人数の教職員の確保は小中一貫教育する上で必要だと思います。東地区は良い形で回っているようなのですが、しかしこの先、生徒が減っていけばできなくなると思いますので、いまの良い状態を維持するために人数の確保は必要だと思っています。なので、一体型で小中一貫教育を1小1中とするのが望ましいというのが私の中ではベストの回答です。それ以外の意見があるのでしたら、いろんなアイデアを聞きたいと思います。いままで色々考えた中でベストの回答が、一貫教育で一体型というものです。

(委員)

今日も配っていただいておりますが、平成27年に文科省が適正規模・適正配置における手引きの中で最初の辺に書いてあるのですが、学校教育である基本的な考え方ところに、これはいつも私たちの話でも出ていることですが、「学校というのは単に教科等の知識や技能を習得させるだけでなく、集団の中で多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて思考力や表現力、判断力、問題解決能力を育み、社会性や規範意識を身に付けさせることが重要」ということが書かれています。学校教育というのは塾や家庭教育と違って、この「社会性を育む」ところにすごく大きな意味があると思っています。平成22年で話し合われた頃の小規模校というのは、まだ集団として機能できるような規模、学校の中で工夫すればできることを想定しながら話していたように思います。私も小規模校の校長でしたので、小規模校の良さもすごく良くわかっております。ただ人間関係が固着化してしまって、すごくしんどくなるという経験もしております。その時にもありましたが、12人の学級で、10人が女の子で2人だけが男の子という学年があって、ものすごく工夫しましたが、やはり集団としてはすごく歪な集団だった経験もあり、限界を感じたこともありました。その頃よりもいまの吉川小学校は人数が減っておりますので、10以上は確保しているとはいうものの、あの頃にやっていた活動よりかなり規模は減っていることを聞いています。だから適度な小規模校、いま東能勢でやっていますが、1学年が5人とか限界を超えてきたときに、社会性を身につけさせることをどうやっていくのかということに危惧します。今年度、東地区で生まれた子どもが4名だということを知って、ものすごく衝撃を受けました。そんなに減るはずではなかったのにと感じております。いま小中一貫校を西地区に作るということを決断しても5年後しかスタートできないのに、その時にはもう既にそんな人数になってしまうのかというのは、とてもショックです。だから一定のことを早く決断しながら結論を持っていかねばならないと思います。小中一貫が上手くいっていないという話もありますが、それは目的を一緒にできなくて、学校で何をやっていくのかという共通理解ができないまま、納得できないまま、見切り発車してしまったところは、上手くいかないと思います。目標をハッキリして時間をかけて、先生方と一緒に地域の人も含めて学校を作り上げていくと、素晴らしい学校になるのではないのかというように感じております。だから早く決めたいというのが正直なところです。

(委員)

学校規模のことですが、情報化社会が進んでおり、またAIということが言われ出しているとき

に、子どもたちにとって学校というのは生の人間が触れ合うところ、お互いに違う意見の人間と意見交換ができる場所として、すごく重要だと思います。社会に出た時にも、単に学校の教科の勉強だけでなく、人間同士がどうやって付き合っていくかとか、どうやってコミュニケーションをとっていくかとか、そういうところも大切になってくると思うので、あまりにも小さい集団であれば、そういう社会性を養うというのも難しいと思います。パソコンとかネットとかを使えば教科の学習ができるところもありますが、実際学校に行って多くの子どもたち、あるいは先生方と触れ合うというのは意味のあること。公教育でそれを保証するというのは大事なことだと思います。いまの状態、予想を見れば5年先、10年先には1クラスの人数がすごく少なくなる。学校建設には5年かかるということを見ると、いま5年先、10年先のことを考えて、どういう形の学校が子どもたちにとって良いのかというのを、いまここできちんと議論して決めていきたいと思います。

(委員)

教育大綱に町長がおっしゃっているのは、「教育力日本一を目指し、これからの時代を生きる抜くために必要な資質、能力を育む教育が重要」ということです。先日お聞きしたのですが、チャレンジテストがあって、大阪府下でも豊能町はトップのクラスに入る学力であると言われております。やはりそのためには切磋琢磨して、お互いに勉強し合い、そして競争をしいだして、お互いに成績を上げていくもの必要ではないかなと思います。ですから文科省から出しておられます手引きにも書いていますが、義務教育段階での学校というのは一定の規模の児童生徒の集団が確保されているということがあります。先ほど委員がおっしゃられていましたように、子どもは集団の中でいろんな考え方を学んで、いろんな友達を作り、認め合い、協力し合って、社会性を学ぶ。切磋琢磨することによって勉学に頑張ることができるということでございます。ですから、やはり少人数よりもむしろ、たくさんの子供が集まって、そして1つの学校でやっていただけたら良いのではないかなと思います。

(委員)

前回の会議の時にも申し上げましたので繰り返しになりますが、学校再配置に関して色々なお話を聞く中で、いろんな意見・考え方がある、何が良いとは言えないことを実感しています。学校は少人数が良いのか、多人数が良いのかと考えます時に、両方の意見があるとは思いますが、現実を見てみますと、豊能町ではなかなか多人数にはならないという実態があります。一緒になっても少人数なんです。私は東地区の住民ですが、東地区の中学生とお話する機会があり、「少人数が良いか、多人数が良いか」と聞きましたら、両方の意見の子がいます。少人数が良いという子に「どうして良いか」と聞きますと、「みんな仲良しで暖かいから」と言います。一方、多人数が良いという子に「どうして多人数が良いか」と聞きますと、「クラブの選抜とかで行ったときに、いろんな人と触れ合えて楽しかった」と言います。両方とも「なるほどな」と思います。その時に「今年度、東地区で生まれたのは4人。ということは、この学年は4人になるんやで。これに関してどう思う？」と聞いたところ、「それは少なすぎる」と子どもは言います。少人数が良いか、多人数が良いか、私はどちらかという少人数派ですが、その少な過ぎるというレベルに東地区はあるのだなということがひとつ。1年前に教育委員会会議に出させていただき、学校のことを考える立場となったときに、「東地区から学校がなくなることは考えられない」、「学校のない希望ヶ丘に誰が引っ越してくるのだろうか」と思っていました。色々な人に話をききました。そ

の中で、「いま東地区に学校を残したところで、東地区に引っ越してくる子がいるか?」と言われた子どもや大人がおり、「そうか」と思いました。私はそれまで「東地区から学校がなくなるなんて」と思っていたのですが、このまま残したとしたら、先程の4人が1つの学年として学校生活を過ごして行くことになるんだ。いま私たちが選択したことは、その子どもたちの学習面や社会性という面等で色んなチャンスを奪ってしまうことになる。それは申し訳ないということをおもいました。「それでは東地区はどうするんだ」となったときに、子どもたちは学校のある時間は西地区で勉強してきますけど、住んでいるのは東地区なので、帰ってきたときに「おかえり」と言って、その4人を迎えられるような地域のつながり、学校はないけれど会えば「おはよう」と言う地域であり、週末になれば地域が集まって子どもたちを交え、「こんな活動をしているんだ」と言えることであるとか、子ども食堂とかいうような食の面でもフォローできる地域を作っていくことで、東地区を盛り上げて行くというように、私の中でスイッチが入れ替わりました。

なので、少ない子どもたちのチャンスを奪ってまで、それはできないなど。それより私たちは東地区のことを頑張っていきたいなという思いで、いまはいます。

#### (議 長)

先ほど、今年の出生が4人というお話がありましたが、4月～11月までの出生です。小中一貫の一体型でということで、いま議論されまして、平成25年では2小2中で議論されていたと、その時はまだまだ人数的にも2小2中で行けるのではないかとことでありましたがけれども、近年、社人研の人口推計を見ますと人口は減少するデータが出ています。人数を見てみますと、決して1小1中になったからといって大きな学校になる訳ではなくて、小規模校の位置づけになります。2小2中で東地区に学校を継続すれば、極小規模の学校になってしまうということが懸念されると、以前議論されていたことです。

いま東地区の学校のことについても委員から出ましたが、東地区の保護者の方、地域の方々から嘆願書が出ており、「学校を残すべきだ」、「地域が寂れる」、「学校で地域づくりをやって行くべきでないか」というような意見をたくさん頂戴いたしました。この要望と学校教育の考え方をリンクしていただいて、東地区の件を踏まえましてご意見を頂戴したいと思います。

#### (委 員)

私は東地区の住民です。この地で生まれて、この地で育ちました。ですから私は双葉保育所から東能勢小学校、東能勢中学校と学校に通いました。皆様方から貴重なご意見やご質問をいただいております。それは重々理解させていただいております。心情的には私自身も何とか東地区に学校を残したいという気持ちでいっぱいでございます。このままの状態ですっと進んでいけば良いのですが、段々と子どもの数が減ってまいります。そうしたときに、どうしたら一番良いのかということをお考えさせていただきました。まだ人数が安定しているときは、東地区にも小学校・中学校を残し、西にも1小1中の形を取らせていただいて、2小2中という形が一番良いのではないかと。それで是非ともお願いしたいと申し出ておりました。ですが、状態が徐々に変わってまいりまして、先ほどからおっしゃっておられますように、かなり子どもさんの数が減ってまいりました。教育委員としての立場から、この豊能町の教育がどのようにしていくのが一番良いのかということをお考えさせていただきました。今回出させていただきますのは教育委員会としての案でございます。これを最終的に決めていただくのは、住民の代表である議会で決まるわけですが、私たちが進めてまいりましたこの案は、教育委員会がどのようにすればこれから子どもた

ちの教育が素晴らしくは発展していくかなどを考えて作らせていただきました。私はできたら、やはり1小1中の小中一体型の学校で進めていって欲しいなと思っております。後に残りました旧校舎利用して、色んなことができると思います。私は東能勢幼稚園のPTAの会長もさせていただきましたし、東能勢小学校のPTAの副会長をさせていただきました。民生委員児童委員もさせていただきました。東能勢小学校の校庭でおはよう挨拶をさせていただきました。学童保育でクリスマス会や行事があったときには参加させていただきました。そういう関係で子ども会連合会の理事もさせていただきました。子どもとの色んなつながりを持っておりました。子どもが一番だと思います。その子どもさんをいかにして私たち大人が育てていくのかというのが私たちのこれからの課題だと思います。東地区の住民としまして、お話をさせていただきました。

(委員)

東地区の皆さんから出された要望、子どものことを思う、それから街のことを思う気持ちは十分にわかります。でも5年後、10年後の子どものことを考えてやはりここは学校を1つにした方がよいのではないかなと私は思います。それで豊能町について学ぶ「豊能学」というのを学校に行って、体験学習として、スクールバスを利用して豊能町の子どもの東地区のことも知るためにこちらの地域にも足を運ぶ、そういうような学習をしていければと思っています。

(委員)

東能勢中学校の学校協議員をさせていただいたことがあるのですが、参加させていただいて東能勢の生徒たちのすごい頑張りとか、先生方の取り組みとか、本当によく頑張っているなど感じてきました。ただ中学校がこれ以上人数が減ってくると、本当に一杯いっぱいやってくれている先生の数が減ってくる。学校の教員定数という決められたものがあるので、学級の規模で先生の加配の数が決まってしまう厳しい現実があります。9教科の先生は全部揃うのか、いまでも教科によっては時間講師が入ったりとかありますし、厳しい現実があると思います。その中でもいま定数では1学級のところを2学級に分けて学校の中の先生方の持ち時間を増やしたりだとか努力して工夫して子どもの生活が安定するように、学力が上がるように努力してくださっており、東能勢中学校の学力はしっかり上がってきていると思っています。ただこれ以上減っていくと、いまの体制をとっていくのは非常に無理がある。いまベテランの先生たちがまだ少し残ってくださっている状況ですが、世代がどんどん後退していく中で、経験の浅い先生も増えてきている。だから先生の力量を頼りにした学校のシステムというのはもう限界にきているかと思っています。時間講師であるとか、東地区と西地区の掛け持ちの先生がいてたとして授業は成り立ったとしても授業が終われば先生は帰ってしまわれる。そのあとで学校の話し合いをしようと思ってもなかなかできなくなったりだとか、研究ができなくなったりだとか、力量を上げていくことが非常に難しくなるのではないかなと思います。本当に目の前に来ているんだと思っています。生徒指導でもそうです。平成25年の2小2中の話し合いをした時も、逆に東能勢の保護者の方から中学校は早く1中にして欲しいというような意見があったりだとか、議会でも議員の中からも中学校は1中の方がよいのではないかという意見が出たりだとか。それはやはり中学校の子どもたちのクラブであるとか、状況を見ながらそういった意見があったかと思います。豊能町は小中一貫教育でいろんなことを高めていきたいと考えている時に、私たちは東地区に小学校だけ残すような不公平なことはできないということが共通理解としてあったと思います。東能勢小学校だけ残して、小学校だけでいままでと同じようにやっていくというのは東能勢の小学校の子どもたち

にすごくしんどい思いをさせてしまうことになる。今後すごく人数が減ったときに、いま1小1中で西地区も東地区も関係なく1つのものを作り上げようとして一緒になると、そうではなくて本当にどうしようもなくなってしまってから合併していったときは、吸収されてしまうような状況になってしまいます。そうなったら、東能勢の子どもたちはすごく西地区と一緒になったときにギャップ、しんどさを感じてしまうのではないかなということも危惧しています。そのようなしんどい思いを子どもたちにさせたくないなという思いもあります。

#### (委員)

嘆願書をたくさんいただいて、もちろん力が入ったお手紙とかもいただいて見させております。それを踏まえて考えていたのですが、我々のベストの考えというのは、この情勢から考えて小中一貫教育で一体型が一番効率が良いというか、ベストな回答がそれなので、それ以上のアイデアは私には少なくともはありません。これ以上のアイデアがあるなら教えていただきたい。

東地区の子どもの今後、さきほど子ども食堂の話も出ていましたが、一体型になって例えば西地区に行ってしまったという場合に、朝ご飯はそこで食べて皆で行く、帰ってきたらそこで勉強や遊びができる場所があったら良いなという話をお聞きしました。児童館的な場所ですね。十分できると思います。授業の一環で、吉川小学校とかがよくやっていますが農業のお手伝い、畑での収穫体験や田んぼのお手伝い、高山右近はじめ史跡がありますので、その辺を社会の本とともに巡って行けるとすごくいいなと思います。森の学校、屋外での授業なんかも面白いかなと思います。川遊び、魚・エビの取り方の指導、虫の観察とか・・・、火起こし体験、祭りの連携・・・。東西の連絡手段を強化して欲しいと思います。より密接に東西がつながる仕組みを作っていきたいし、ちょっと違う方向でたくさんの方と議論したいなと思っています。教育面でいうと良いアイデアがあればぜひお聞きしたいし、それがあったとしてもいま言ったような話はやっていきたいなと思っています。

#### (議長)

私も保護者説明会で特にお話をさせて頂きました。いま東能勢中学校、小学校の先生方はすごく努力をしてくださっているんだと。これは事実でございます。現状、東能勢中学校では一学年30～40人おりますが、その状況であれば、学校としての、あるいはクラスとしての教育を受けたりすることができる。これは大事にしていかなければならないと、保護者説明会でも申し上げました。ただそういう状況が5年先、10年先には見えない。子どもが減るだけでなく、先生の数も減っていく可能性が大であると。そうすると先生方がいま以上に一杯いっぱいになってしまう。そんな中で連携型をやっても実のある小中一貫教育がなされるのは現実的に厳しいと申しました。5年先の状況、10年先の状況を見たときに、平成25年、26年当初は2小2中というのが一つの教育委員会での意見であったと聞いておりますが、教育の質が確保できるかという点で非常に厳しいものがあることは、保護者説明会で何度も申しました。そのようなことから、なかなか学校を存続していくのは懸念が残ると申しておりました。私もここで生まれ育った身でありますので、学校を残して欲しいというご意見、心情的には分かりますが、こういうことから、存続意見については厳しいのであるかと感じております。

では、全体を通して、先ほども出ておりましたが5年先、10年先豊能町の教育としてどうあるべきかをそれぞれの委員からご意見を賜りたいと思います。

(委員)

小中一貫教育は全国で始まっていますので、それを参考にしながら一定の教育というのはもちろんやりたいのですが、豊能町ならではの教育で、「豊能町の子どもに何ができるのか」という視点で、早く共通理解のできるビジョンを作って、それに向けて子どもを育てて行くというように、皆さんで考えていきたいなと思っております。

(委員)

東地区、西地区が一緒になって1小1中になったとしても、豊能町でできる学校は加配のある大規模校ではなくて、小規模校、あるいは適正規模の学校です。先ほど委員が、平成22年の審議会提言の中に出てくる小規模校の良さをまとめたものを読んでもいただきましたが、まさにそれを、新しくできる学校でも引き継いで欲しい。それはいま東能勢小学校・中学校でやっていることであり、小規模校である吉川小学校が長年培ってきたことだと思っています。それを引き継ぎながら、これだけ色々と話をしているので地域のコミュニティスクールとして東西の良いものを地域の力を借りながら、是非新しいものを生み出していきたいと考えています。

(委員)

この豊能町の規模だからこそ、できる、やり易い小規模校のメリット、都会の学校ではできない教育を是非進めたいと思います。

(委員)

5年先、10年先を見据えて、考え得る中で最も教育の質が高くなるような学校を目指していきたいと思います。それにはやはり保幼小中一体型の教育で、しかも一体型の校舎で豊能町で一つ、どこに住んでいても同じ教育が受けられるような形をできたら良いと思います。

(委員)

私も5年先、10年先を見越して、教育の質の確保と、豊能町の子どもさんには「学校はこんなに楽しくて、みんなとともにクラブ活動が出来て、何よりクラス替えが嬉しいな」という場所を是非ともお願いしたいと思います。

(議長)

繰り返しませんが、皆さんがいまご発言いただいたことについては、今後町長に改めて報告し、その後、町長と議会が協議をされると聞いております。それぞれ色々な意見があるのは重々承知しておりますが、教育委員会の意見として町長へ報告させていただいていきたいと思っております。

他にございませんか。それでは、この件については以上とさせていただきます。

(議長)

では次に、前回会議以降の各課・室の報告に移ります。  
順次、事務局より報告を求めます。

#### 教育総務課

- ・各種研修会（1/29、2/8）の案内について

#### 教育支援課

- ・行事の報告（12/8 紙飛行機大会、12/9 人権を考える集い、12/25 保幼小中合同研修会）について
- ・インフルエンザの報告（吉中・3名、東と小・1名、光風台小・1名）

#### 子ども支援室

- ・次世代子育てネットワークづくり「生命の誕生について」
- ・保育所入所の利用調整について

#### 生涯学習課

- ・事業の予定について

（議 長）

ご質問はございますか。

（委 員）

2学期も終了しましたので、各学校から報告が何かあれば教えてください。

（事務局）

特段、大きな問題もなく、2学期を終了したと聞いております。6人の校長先生方に終業式が終わってから2学期の報告をお伺いしたのですが、その中で不登校のお子さんが終業式には来れたという報告を中学校からいただいており、先生方の粘り強い指導とお子さんのこれからの目標を設定しながら、終業式を終えることができたという報告を受けております。その他は特に大きな問題はなかったと認識しております。

（議 長）

他にございませんか。

以上で、本日の議事はすべて終了いたしました。

1月の豊能町教育委員会会議につきましては、1月28日（月）午前9時30分より開催させていただきます。

2月の教育委員会会議につきましては、日程調整をさせていただきたいと思っております。事務局としては、2月25日（月）～28日（木）のいずれかの日で、午前9時30分からの日程で開催したいと考えています。

委員の皆様のご都合はいかがでしょうか。

＝ 日程調整 ＝

（議 長）

それでは、2月25日（月）午前9時30分から開催させていただきます。

以上をもちまして、平成30年度第9回豊能町教育委員会会議（12月定例会）を閉会いたします。

本日は、お疲れ様でした。

閉会 午前11時17分